
第1回 藤堂志摩子の人生相談室

紅い稲妻

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

第1回藤堂志摩子の人生相談室

【Nコード】

N7845I

【作者名】

紅い稲妻

【あらすじ】

小笠原祥子の人生相談室シリーズの姉妹編です。

今回は白ですが、俗に言う黒志摩子が主人公のコメディです。

時間設定は志摩子が白薔薇さまになり2年生で、乃梨子は既に妹になっている事になっています。

また、この作品も壊れています。

堪能頂けたら幸いです。

前任者の先代薔薇さま達や他の薔薇さま達が、番組の主旨を履き違えているため、藤堂志摩子が担当の日、番組スタッフ達は期待していた。

やっとな番組ができると期待していた。

OPは春らしくヴィヴァルディの四季から春第一楽章を使うなど、明らかに他の二人と違っていた。

だが、様子も先代達もOPにはクラシックを使っていた。油断ならない。

息を飲んでスタッフ達は成り行きを見守っていた。

「えーと、それではお電話が入っているようです。もしもし」

「もしもし、PNは名字なしです」

「相談事はなんですか？できるだけ、ご期待に答えられるように頑張ります」

ここまではOKだ。

スタッフは固唾を飲んで見守っていた。

「実は紅薔薇のつぼみとは親友なのに、出番がほとんどないです。どうにかして下さい！」

「親友だったの間違いではないかしら！それに私の妹すら中々出番がないのに、だった人が無理言っただめよ！」

力説する志摩子に、隣の部屋でスタッフ達はズッコケていた。

余りの天然にスタッフ達は呆れていた。

吉本新喜劇でもこんなベタな事はしない。

「…」

「…」

「もう、いいです（泣）」

桂は電話した時よりも更に元気をなくして切った。

「これで解決して良かったわ」

天然なのか？

黒いのか？

桂とは対称的に、志摩子はすっきりした顔で言った。

「次の方ですね。もしも〜し」

「イケイケ青信号侍です。姉がヘタレで困っています。どうかして下さい」

「それは無理です」

余りの即答にスタッフ達は、またもやズッコケる。

「もうちょっと、考えて答えてくれないかしら、志摩子さん」
傍で助手を勤める二条乃梨子が、

「黙れ！私の志摩子さんに何を吐かすんじゃないやあ、ゴラア！」
と吠えていた。

10秒程何も言わず、再び口を開くと、

「由乃さん、誰が考えても令さまのヘタレは治せないわ！」
いつもと変わらぬおっとりした口調で、志摩子は答える。

「まあ、不治の病ですか？志摩子さん」

「さすがは乃梨子、良く解ってるわ」

「キィ〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜ッ！」

と由乃は悔しがる。

「所詮、黄薔薇ですからね」

と志摩子がトドメを刺す。

ウンウンと乃梨子は頷く。

これでもかと言うくらい低い声で、由乃は口を開いた。

「志摩子さん、よく、解ったわ！」

「あら、お役に立て嬉しいわ」

と変わらずポワーンとした口調で、志摩子は返す。

「今回で白が敵なのが、よく解って嬉しいわ」

黒い！

番組スタッフ達は余りの黒さに怯えていた。

「取り合えず、田沼ちさとを抹殺してから、ケリ付けるわ」

おい！

スタッフ達は由乃に心の中で突っ込んだ。

「あら、だとしたら、永遠にお相手できないわ！ちささんが由乃さんに負けるとは思えないし…？ねっ、乃梨子」

「はい、志摩子さん！黄薔薇なぞ、敵にはなりません」

乃梨子が断言すると、

「さすがは私の妹だわ！よく解ってるわ！」

と言うと、

「「オッホッホホホ」」

と二人揃って笑い出す始末だ。

「ち、畜生！白は絶対に撲殺してやる……！」

と言うと、切れた。

「間違いなく、黄薔薇さまは由乃さまにボコられますね」

と乃梨子が言うのと、志摩子はニコツと笑った。

自分の手を汚さずに黄薔薇潰す。

恐るべし、白薔薇一族！

「これで今日の相談は終わります。相談された方の悩みは解決しました。では、皆さん、ごきげんよう！」

志摩子はそう言うが、誰も解決したなんて認めていなかった。

ただ一人乃梨子だけが、盛大な拍手と絶賛してただけだ。

番組スタッフ達と思う。

今日から白薔薇でなく、黒薔薇と名乗るべきだと思った。

ただ、余りに黒いから、恐ろしくて口にできなかったのは、当然の話でもある。

翌朝、ミイラのように包帯をグルグル巻きにした令が登校したのは、言うまでもないだろう。

終わり？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7845i/>

第1回藤堂志摩子の人生相談室

2010年10月8日21時42分発行